

リスク管理態勢

金融機関を取り巻く環境は、一段と複雑化・多様化しており、金融機関経営におけるリスク管理の重要性が高まっています。

足利小山信用金庫では、リスク管理態勢の強化を経営の重要課題と位置づけ、経営陣が積極的に関与し、ALM委員会およびリスク管理検討部会ならびに理事長を委員長とするリスク管理委員会のもとで主管部署が中心となり業務運営にかかわるリスク管理に取り組んでいます。

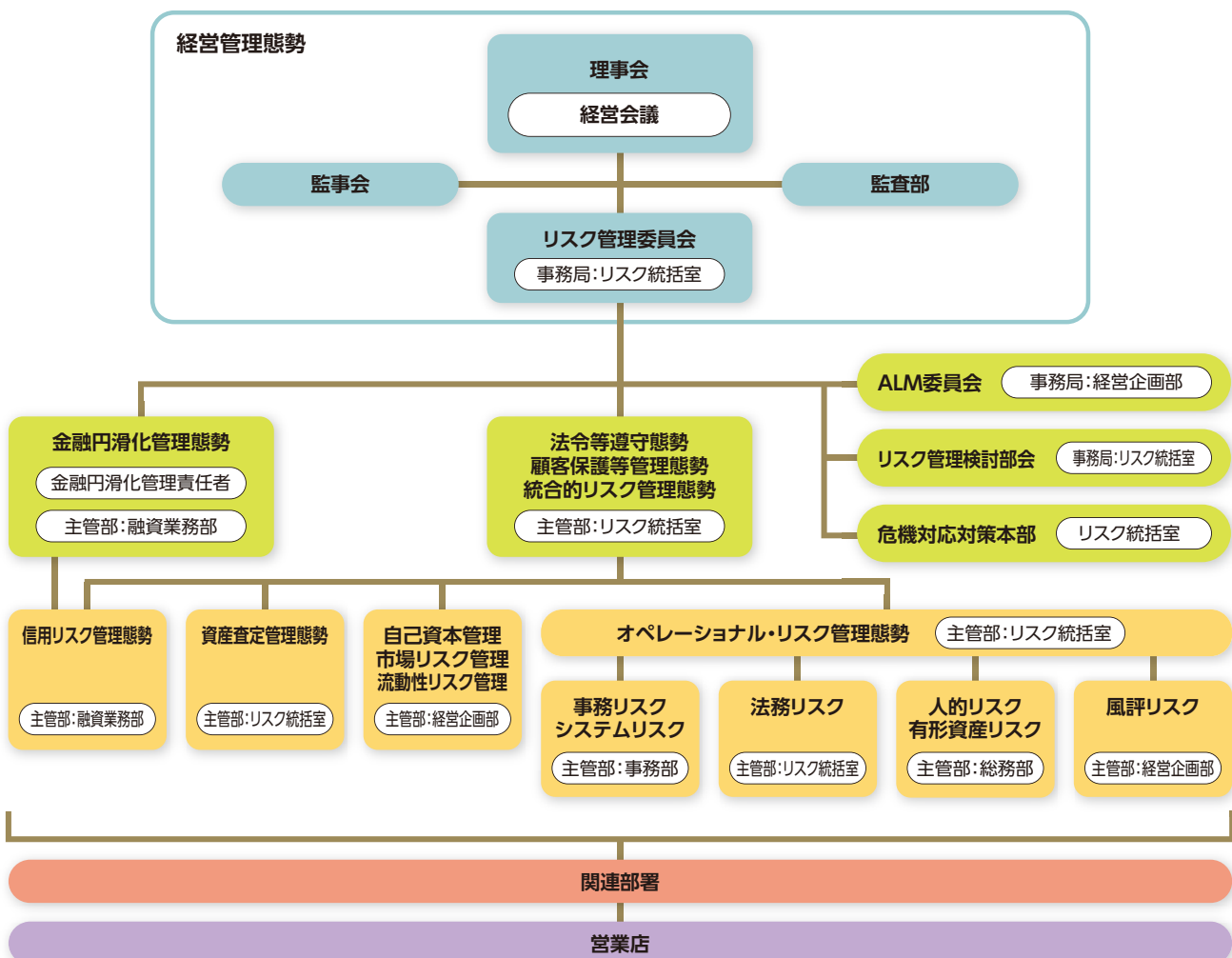
統合的リスク管理

統合的リスク管理とは、金融機関が直面するリスクに関して、自己資本比率の算定に含まれないリスク(与信集中リスク、銀行勘定における金利リスク等)も含めて、それぞれのリスク・カテゴリー(信用リスク・市場リスク・流動性リスク・オペレーショナルリスク)ごとのリスクを総体的に捉え、自己資本と比較対照して管理することをいいます。

当金庫では、「統合的リスク管理規程」を定め、各種業務執行に伴い発生するさまざまなリスクを正しく把握し、個別の方法で質的または量的に評価したうえで経営体力(自己資本)と対照することによって金庫全体のリスクの程度を判断し的確な対応を行うなど、統合的リスク管理機能の実効性を確保しています。

統合的リスク管理体制図

(平成26年6月末現在)



●信用リスク管理

信用リスクとは、取引先の倒産や財務状況の悪化などにより、当金庫が損失を受けるリスクをいいます。

(詳細は27頁および41頁をご参照ください)

●市場リスク管理

市場リスクとは、金利、為替、株式等の変動により損失を被るリスクであり、運用にあたっては十分配慮し安定的な収益確保に努めています。(詳細は27頁をご参照ください)

●流動性リスク管理

流動性リスクとは、必要な資金が確保できなくなる資金繰りリスクと、市場の混乱等により損失を被る市場流動性リスクをいい、当金庫では、安定的な資金繰り体制を整備することで、不測の事態にも迅速・適切な資金対応が図れるよう努めています。(詳細は27頁をご参照ください)

●オペレーショナル・リスク管理

オペレーショナル・リスクとは、金融機関の内部管理体制の不備や災害時の外生的事象から生じる損失に係るリスクのことで、以下に掲げる「事務リスク」「システムリスク」「風評リスク」「法務リスク」「人的リスク」「有形資産リスク」等を総称したリスクです。

▶事務リスク管理

事務上のミスや不正により損失を被るリスクのことで、当金庫では、「事務リスク管理要領」等を定め、常に事務リスク発生の危険度を把握し、各種事務取扱規程・要領等の整備、指導を図るとともに、厳正な事務管理に努めています。また、監査部による本部、営業店への内部監査を実施し、規程・要領の遵守状況をチェックするとともに、事故を未然に防ぐための管理態勢が確実に機能しているか否かを厳正に監査し、事務の正確性維持および事故防止を図っています。

▶システムリスク管理

コンピュータシステムのダウン・誤作動、情報資産の漏洩等により損失を被るリスクのことで、当金庫では、「システムリスク管理要領」等を定め、システムの安全性、信頼性を維持し、情報資産の保護に努めています。

▶風評リスク管理

金融機関の評判の悪化や風説の流布等により信用が低下することにより損失を被るリスクのことで、当金庫では、「風評リスク管理要領」等を定め、経営の維持安定に努めています。

▶法務リスク管理

金庫経営、金庫取引等に係る法令・庫内規程等に違反する行為ならびにその恐れのある行為が発生することにより、当金庫の信用の失墜を招き、当金庫が損失を被るリスクのことで、当金庫では、「法務リスク管理要領」等を定め、企業倫理の確立と法令等遵守の企業風土を醸成し、信用の維持、確保に努めています。

▶人的リスク管理

当金庫全従業員に起因する事象による経営資源の脆弱化、信用失墜により金庫が損失を被るリスクのことで、当金庫では、「人的リスク管理要領」等を定め、円滑な業務運営を果たすための態勢を整備、業務の適切性確保に努めています。

▶有形資産リスク管理

災害や資産管理の瑕疵などの結果、有形資産の毀損や職場環境の質の低下などにより当金庫が損失を被るリスクのことで、当金庫では、「有形資産リスク管理要領」等を定め、有形資産・職場環境等の点検を定期的に行い、リスクの低減を図ることに努めています。

セキュリティ対策等

■オンラインシステム

当金庫は、勘定系等の基幹システムについて、「しんきん共同センター」が運営管理を行っている共同システムを利用しています。同センターでは、公益財団法人金融情報システムセンターの安全対策基準に基づいた情報セキュリティ管理基準を制定し、オンラインシステムのセキュリティ対策を、システムの内容・企画開発、設備、人事教育等考慮すべきすべての面で実施しており、当金庫も定期的に監査報告を受けています。

また、大地震等の災害に備えバックアップセンターを別個に設置し、万一、共同センターが被災した場合でも短時間での復旧が可能な態勢をとっています。

なお、当金庫は停電時においてもお客さまに対して最低限のサービスを提供し続けることを目的に、本店営業部および小山営業部のほかに、福居支店と城東支店に、新たに自家発電装置を設置しています。



■インターネットバンキング

インターネットバンキングについても「しんきん共同

センター」および「しんきん情報システムセンター」が運営管理を行っている共同システムを利用しており、基幹システムと同等のセキュリティ対応を講じています。

また、お客さまと共同センターをインターネット回線で結ぶため、通信の暗号化や時間による強制ログアウト、複数パスワードによる認証管理等を行い、お客さまが安心してバンキングサービスをご利用いただける環境整備に努めています。

なお、個人向けインターネットバンキングでワンタイムパスワード(1回きりの使い捨てパスワード)を導入いたしました。アプリケーション(ソフトウェアトークン)により30秒ごとに発行されるワンタイムパスワードを入力することで、より強固なセキュリティを図るもので、ご希望により利用いただけます。

■大地震を想定した当金庫の対応

当金庫営業エリア内で大地震が発生した場合、従業員の安否・出勤の可否等をより早く確認するため「安否確認システム」を導入し、また、連絡網遮断時における役職員の行動基準を定め参集店舗を明確化しました。これにより、危機管理計画を実行するうえでの参集体制強化・業務継続に向けた対応を図っています。